



HOKKAIDO UNIVERSITY

Title	[目録] 唐澤隆三・富美子関係資料
Author(s)	山本, 美穂子//解題
Citation	北海道大学大学文書館年報, 7, 93-104
Issue Date	2012-03-31
Doc URL	https://hdl.handle.net/2115/49412
Type	other
File Information	ARHUA7_005.pdf



< 資 料 >

〔目録〕唐澤隆三・富美子関係資料

1. 唐澤隆三関係資料目録

資料 番号	資料表記			年代
	資料名	年・年度・自至	作成者	
【ノート類 B】				
唐澤B-1	「確率と統計 1979年 豊島高 (定)唐沢隆三」(授業ノート)	1979年	唐澤隆三	1979
【文書類 F】				
唐澤F-1	[卒業]証明書(北大理証卒第拾 五号／唐澤隆三)	昭和18年 9 月25日	北海道帝国大学理 学部長	1943
唐澤F-2	教練検定合格証明書(唐澤隆三)	昭和18年 9 月25日	倉橋尚 (北海道帝 国大学配属将校)	1943
唐澤F-3	[大学院特別研究生合格通知] (唐澤隆三)	昭和18年10月 5 日	北海道帝国大学理 学部	1943
唐澤F-4	[教員適格審査]判定書(唐澤隆 三)(写)	昭和21年 8 月22日	長野県教員適格審 査委員長	1946
唐澤F-5	[発令通知(応用電気研究所に於 ける数学に関する研究嘱託)] (唐澤隆三)	昭和22年10月 7 日	北海道大学	1947
唐澤F-6	[発令通知(副手)](研究嘱託 唐澤隆三)	昭和23年 1 月31日	北海道大学	1948
唐澤F-7	[任命通知(研究員)](唐澤隆三) (写)	昭和23年 3 月31日	伊藤誠哉 (北海道 大学総長)	1948
唐澤F-8	[分課命令(数学部門)](副手 唐澤隆三)(写)	昭和23年 1 月31日	[北海道大学] 応 用電気研究所	1948
唐澤F-9	[発令通知(7級5号俸)](文部 教官 唐澤隆三)(写)	昭和25年 2 月28日	北海道大学事務局 庶務課	1950
唐澤F-10	[辞令(文部教官)](唐澤隆三) (写)	昭和25年 2 月28日	伊藤誠哉 (北海道 大学長)	1950
唐澤F-11	[辞令(文部教官免官)](唐澤隆 三)	昭和25年 6 月30日	北海道大学	1950
唐澤F-12	俸給諸手当内訳表(唐澤隆三) (写)	昭和23年 6 ～ 8 月分 昭和24年 9 月分 昭和25年 6 月分	[北海道大学応用 電気研究所]	1948-1950
唐澤F-13	履歴書	昭和18年 1 月20日	唐澤隆三	1943
唐澤F-14	[履歴書(昭和18年 9 月～昭和20 年 9 月)]	[昭和20年 9 月]	唐澤隆三	1945
唐澤F-15	[理学部数学科学士試験合格]証 明書(北大理証第十八号/唐澤隆 三)	昭和25年 4 月21日	松浦一 (北海道大 学理学部長)	1950

資料 番号	資料表記			年代
	資料名	年・年度・自至	作成者	
唐澤 F-16	唐澤隆三宛「履歴証明及び退職手当の支給に関する証明について(回答)」(履歴証明・退職手当支給証明付き)(写)	昭和54年1月5日	松森隆(北海道大学庶務部人事課長)	1979
唐澤 F-17	戸籍謄本(唐澤隆三)	平成18年5月24日	志村 豊志郎(東京都練馬区長)	2006
唐澤 F-18	卒業証明書(海大理卒証第88号／唐澤隆三)(写)	平成18年5月29日	岡田尚武(北海道大学理学部長)	2006
唐澤 F-19	[成績]証明書(海大理証370号／唐澤隆三)(写)	平成18年5月29日	岡田尚武(北海道大学理学部長)	2006
【刊行物 G】				
唐澤 G-1	『柳』	昭和29年12月～平成23年2月	唐澤隆三(ソオル社)	1954-2011
唐澤 G-2	『美』第1, 2, 5, 32, 34, 133, 146, 155, 156号	平成11年2月～平成17年10月	唐澤隆三(ソオル社)	1999-2005
唐澤 G-3	『わが非戦論史』	昭和31年9月5日発行	石川三四郎(ソオル社)	1956
唐澤 G-4	『自由律俳句史雑記』	昭和46年11月1日発行	唐澤隆三(ソオル社)	1971
唐澤 G-5	『自由律俳句史ところどころ』	昭和40年5月4日発行	唐澤隆三(ソオル社)	1965
唐澤 G-6	『馬の足 雑文集』	昭和47年7月1日発行	唐澤隆三(ソオル社)	1972
唐澤 G-7	『ふるさと 詩集』	昭和48年5月4日発行	唐澤隆三(ソオル社)	1973

2. 唐澤富美子関係資料目録

資料 番号	資料表記			年代
	資料名	年・年度・自至	作成者	
【ノート類 B】				
大杉B - 1	「非ゆうくりっど幾何学」(梶島二郎、内田老鶴圃1922年出版の筆写ノート)	[昭和6～10年度]	大杉富美子	1931-1936
大杉B - 2	「AUTOMORPHIC FUNCTIONS BY LESTER R. FORD, PH. D.」(1929年第1版の筆写ノート)	[昭和16～18年]	大杉富美子	1941-1943
大杉B - 3	「入江盛一助教授「複素変数函数論」の演習ノート」(写)	[昭和17年]	大杉富美子	1942
大杉B - 4	「函数論」(写)	[昭和17年度]	大杉富美子	1942-1943
大杉B - 5	「解析集合論 功力先生」(写)	[昭和18年]	大杉富美子	1943
【原稿類 C】				
大杉C - 1	「非ユウクリッド幾何学概観」(日本女子大学家政学部第二類卒業論文原稿)	[昭和14年度]	大杉富美子	1939-1940

資料 番号	資料表記		年代	
	資料名	年・年度・自至		作成者
【メモ類 D】				
大杉D-1	[目次メモ「しゅわるつノ不等式、ほか」](写)	[昭和22～27年度]	[唐澤富美子]	1947-1953
大杉D-2	[ビーナッツマカロンのレシピ]		[唐澤富美子]	
大杉D-3	[買い物メモ]		[唐澤富美子]	
【文書類 F】				
大杉F-1	保育証書(大杉富美子)	大正14年 3 月24日	日本女子大学校附属豊明幼稚園	1925
大杉F-2	卒業証書(大杉富美子)	昭和 6 年 3 月23日	日本女子大学校附属豊明小学校	1931
大杉F-3	卒業証書(大杉富美子)	昭和11年 3 月23日	日本女子大学校附属高等女学校	1936
大杉F-4	[卒業証書](大杉富美子)	昭和15年 3 月25日	日本女子大学校	1940
大杉F-5	[学士試験合格証書](大杉富美子)	昭和18年 9 月25日	北海道帝国大学	1943
大杉F-6	教員免許状 師範学校中学校高等女学校教員無試験検定合格者(家事 大杉富美子)	昭和15年 7 月18日	文部省	1940
大杉F-7	教員免許状 高等学校高等科教員無試験検定合格者(数学 大杉富美子)	昭和19年 1 月10日	文部省	1944
大杉F-8	[辞令(研究員ヲ命ス)](大杉富美子)	昭和19年10月 3 日	通信省電気試験所	1944
大杉F-9	[賞与通知(四拾円)](研究員大杉富美子)	昭和19年12月 9 日	電気試験所	1944
大杉F-10	[発令通知(任通信技官)](大杉富美子)	昭和21年 6 月30日	電気試験所庶務課長	1946
大杉F-11	[発令通知(給十号俸)](通信技官 大杉富美子)	昭和21年 7 月 1 日	電気試験所庶務課長	1946
大杉F-12	[発令通知(十一号俸)](通信技官 大杉富美子)	昭和22年 9 月30日	電気試験所庶務課長	1947
大杉F-13	[発令通知(十二号俸)](通信技官 大杉富美子)	昭和22年12月31日	電気試験所庶務課長	1947
大杉F-14	[発令通知(7級7号俸)](通商産業技官 唐澤富美子)	[昭和26年 1 月 1 日]	工業技術庁電気試験所	1951
大杉F-15	人事異動通知書 [辞職承認](唐澤富美子)	昭和27年 9 月15日	工業技術院電気試験所	1952
大杉F-16	履歴書(唐澤富美子)	昭和27年12月16日	工業技術院電気試験所	1952
大杉F-17	大正十四年度通知簿(第一学年大杉富美子)	大正14年度	日本女子大学校附属豊明小学校	1925-1926
大杉F-18	大正十五年度通知簿(第二学年大杉富美子)	大正15年度	日本女子大学校附属豊明小学校	1926-1927

資料 番号	資料表記			年代
	資料名	年・年度・自至	作成者	
大杉 F -19	昭和二年度通知簿(第三学年 大杉富美子)	昭和2年度	日本女子大学校附 属豊明小学校	1927-1928
大杉 F -20	昭和三年度通知簿(第四学年 大杉富美子)	昭和3年度	日本女子大学校附 属豊明小学校	1928-1929
大杉 F -21	昭和四年度通知簿(第五学年 大杉富美子)	昭和4年度	日本女子大学校附 属豊明小学校	1929-1930
大杉 F -22	昭和五年度通知簿(第六学年 大杉富美子)	昭和5年度	日本女子大学校附 属豊明小学校	1930-1931
大杉 F -23	学業成績概評[昭和八年度第三 学期成績](第三学年東組 大杉 富美子)	昭和8年度	日本女子大学校附 属高等女学校	1933-1934
大杉 F -24	学業成績概評[昭和九年度第三 学期成績](第四学年東組 大杉 富美子)	昭和9年度	日本女子大学校附 属高等女学校	1934-1935
大杉 F -25	学業成績概評[昭和十年度第二 学期成績](第五学年東組 大杉 富美子)	昭和10年度	日本女子大学校附 属高等女学校	1935-1936
大杉 F -26	[卒業成績]証明書(昭和十五年 三月家政学部第二類卒業 大杉 富美子)	昭和15年3月14日	井上秀(日本女子 大学校長)	1940
大杉 F -27	昭和六年度授業料領収証(高等 女学校一年生東組 大杉富美子)	昭和6年度	日本女子大学校	1931-1932
大杉 F -28	昭和六年度自治費(第一学年東 組 大杉富美子)	昭和6年度	[日本女子大学校]	1931-1932
大杉 F -29	昭和七年度授業料領収証(高等 女学校第二年生東組 大杉富美子)	昭和7年度	日本女子大学校	1932-1933
大杉 F -30	昭和七年度自治費(第貳学年東 組 大杉富美子)	昭和7年度	[日本女子大学校]	1932-1933
大杉 F -31	昭和八年度授業料領収証(高等 女学校三年生東組 大杉富美子)	昭和8年度	日本女子大学校	1933-1934
大杉 F -32	昭和八年度自治費(第参学年東 組 大杉富美子)	昭和8年度	[日本女子大学校]	1933-1934
大杉 F -33	若葉会費積立票(第一学年 大 杉富美子)	[昭和6年度]	[日本女子大学校]	1931-1932
大杉 F -34	昭和九年度授業料領収証(高等 女学校四年生東組 大杉富美子)	昭和9年度	日本女子大学校	1934-1935
大杉 F -35	昭和四年度受領証(豊明小学校 第五学年 大杉富美子)	昭和4年度	日本女子大学校	1929-1930
大杉 F -36	昭和五年度受領証(豊明小学校 六年生 大杉富美子)	昭和5年度	日本女子大学校	1930-1931
大杉 F -37	学力検定試験受験証票(大杉富 美子)	昭和16年	北海道帝国大学理 学部	1941
大杉 F -38	第二次入学志願者受験証票(大 杉富美子)	昭和16年	北海道帝国大学理 学部	1941

資料 番号	資料表記			年代
	資料名	年・年度・自至	作成者	
大杉 F -39	昭和十六年度第二次入学試験日割	昭和16年度	北海道帝国大学理学部	1941
大杉 F -40	入学許可書(大杉富美子)	昭和16年 4 月11日	北海道帝国大学理学部	1941
大杉 F -41	学生生徒必携(「在学証 昭和十六年入学 理学部数学科 大杉富美子」付き)	昭和16年 6 月26日交付	北海道帝国大学	1941
大杉 F -42	身分証明書(理学部学生 大杉富美子)	昭和18年 9 月23日	小熊捍(北海道帝国大学理学部長)	1943
大杉 F -43	北海道帝国大学理学部図書借用証券(袋付き)	[昭和16～18年]	北海道帝国大学理学部[図書室]	1941-1943
大杉 F -44	[図書]帯出者カード(数学教室 1 年 大杉富美子)	[昭和16年度]	北海道帝国大学理学部図書室	1941-1942
大杉 F -45	[図書]帯出者カード(数学教室 2 年 大杉富美子)	[昭和17年度]	北海道帝国大学理学部図書室	1942-1943
大杉 F -46	パン特別購入券(板橋区江古田町 大杉富美子)	[昭和20～23年]	東京都	1945-1948
大杉 F -47	卒業証明書(海大理卒証第87号/大杉富美子)(写)	平成18年 5 月29日	岡田尚武(北海道大学理学部長)	2006
大杉 F -48	[成績]証明書(海大理証369号/大杉富美子)(写)	平成18年 5 月29日	岡田尚武(北海道大学理学部長)	2006
【刊行物 G】				
大杉 G - 1	『北海道帝国大学学生生徒便覧 昭和十六年四月』	昭和16年 4 月発行	学生課	1941
大杉 G - 2	『大杉くま追想集 やまゆり』	昭和45年12月 9 日発行	唐澤富美子(ソオル社)	1970
大杉 G - 3	唐澤富美子「私と暮らし」(『グラフねりま』第5号、26頁)(写)	昭和61年 1 月発行	東京都練馬区企画部広報課	1986
【視聴覚資料類 H】				
大杉 H - 1	大杉富美子(ピアノ演奏)	[大正 9 ～11年]		1920-1922
大杉 H - 2	大杉富美子(雑司ヶ谷鬼子母神境内にて)	[大正12～14年]		1923-1925
大杉 H - 3	大杉正夫、大杉富美子(雑司ヶ谷金山にて)	[大正12～14年]		1923-1925
大杉 H - 4	大杉富美子(高等女学校生、証明写真)	昭和 6 年 5 月		1931
大杉 H - 5	清水民子、大杉富美子(高等女学校生)	昭和 7 年10月11日		1932
大杉 H - 6	日本女子大学附属高等女学校第3学年東組卒業記念	昭和 9 年 3 月24日		1934
大杉 H - 7	横井伝右衛門を囲む横井・大杉一家(大杉家門前にて)	昭和 9 年春		1934
大杉 H - 8	大杉富美子 (高等女学校生、証明写真)	昭和11年春		1936

資料 番号	資料表記			年代
	資料名	年・年度・自至	作成者	
大杉H-9	大杉富美子、他2名(神宮外苑にて)	昭和13年2月12日		1938
大杉H-10	大杉富美子(日本女子大学校生、証明写真)	昭和14年春		1939
大杉H-11	大杉富美子(日本女子大学校物理学教室にて)	[昭和14~15年]		1939-1940
大杉H-12	大杉富美子、渡邊雅(北海道帝国大学の温室にて)	昭和16年4月		1941
大杉H-13	北海道帝国大学理学部数学科第12期クラス会	昭和16年6月11日		1941
大杉H-14	北海道帝国大学理学部数学科第12期クラス会	昭和16年12月11日		1941
大杉H-15	功力金二郎教授(スキー姿)	[昭和16~17年冬]		1941-1942
大杉H-16	大杉富美子(中島武三宅前にて、南4条西16丁目)	[昭和16~18年]		1941-1943
大杉H-17	大杉富美子(中島武三宅前にて、南4条西16丁目)	[昭和16~18年]		1941-1943
大杉H-18	大杉富美子	[昭和16~18年]		1941-1943
大杉H-19	大杉富美子、渡邊雅(クラーク像前にて)	[昭和16~18年]		1941-1943
大杉H-20	渡邊雅	[昭和16~18年]		1941-1943
大杉H-21	大杉富美子、渡邊雅、桂田芳枝助手	[昭和16~18年]		1941-1943
大杉H-22	大杉富美子	昭和19年3月19日		1944
大杉H-23	大杉富美子、他2名	昭和23年夏		1948
大杉H-24	唐澤富美子、酒井十代、澤田満喜、添谷晃子、他1名	昭和30年夏		1955
大杉H-25	唐澤富美子、添谷晃子	昭和38年8月19日		1963
大杉H-26	唐澤・関口一家(唐澤富美子、朝永領子、唐澤憲一、他5名)	[昭和39年]		1964
大杉H-27	唐澤富美子(自宅玄関前にて)	昭和39年7月5日		1964
大杉H-28	唐澤富美子(自宅庭にて、猫チビを抱いて)	昭和39年7月26日		1964
大杉H-29	唐澤富美子(自宅庭にて)	昭和39年9月6日		1964
大杉H-30	唐澤富美子(自宅玄関前にて、猫を抱いて)	昭和42年7月23日		1967
大杉H-31	唐澤富美子(柳糸亭前にて)	昭和44年春		1969

資料 番号	資料表記			年代
	資料名	年・年度・自至	作成者	
大杉H-32	唐澤富美子（柳糸亭にて）	[昭和39～44年]		1964-1969
大杉H-33	唐澤富美子	昭和52年4月2日		1977
大杉H-34	唐澤富美子(『グラフねりま』第5号掲載写真)	昭和60年秋		1985
大杉H-35	[録音テープ(大杉くま法要)]	昭和45年7月12日		1970
大杉H-36	[録音テープ(雑司ヶ谷時代の回想)]	昭和45年7月13日		1970
大杉H-37	[録音テープ(江古田時代の回想)]	昭和45年7月20日夜		1970
大杉H-38	[録音テープ(江古田時代の回想、親類の話)]	昭和45年7月26日夜		1970

- (1) 推定は〔 〕表記、不明は空欄とした。
(2) 唐澤富美子関係資料の資料番号の記号は、時代にかかわらず、「大杉」を採用した。
(3) 資料名欄における補記は（ ）表記とした。コピー等の複写の場合は、資料名欄に（写）と記載した。
(4) 写真類（H-1～H-34）の資料名欄には、被写体の人物名・時期・場所など、写真から判別できる名称を付けた。
(5) 目録作成にあたっては、『柳』、『美』、『雑文集 馬の足』等を参照した。

唐澤隆三略年譜

1918年	5月4日、長野県小縣郡滋野村に生まれる
1931年	3月23日、滋野尋常高等小学校尋常科卒業
1936年	3月3日、長野県立上田中学校卒業
1937年	4月、横浜市郊外の純真学園（岡本利吉主宰）で学ぶ（～7月）
1938年	4月、東京物理学校高等師範科に入学
1941年	3月21日、東京物理学校高等師範科数学部卒業
	4月、北海道帝国大学理学部数学科入学
	7月30日、師範学校中学校高等女学校教員無試験検定（数学）合格
1943年	9月25日、北海道帝国大学理学部数学科卒業
	10月1日、第一補充兵（歩兵）にして東部五十連隊に入隊の臨時召集令状を受ける
	10月1日、海軍予備学生に命ぜられる／海軍省
	10月1日、海軍兵学校入校／海軍省
	10月5日、北海道帝国大学大学院特別研究生合格
	12月25日、横浜海軍航空隊に転属、海軍兵学校退校
	12月29日、洲ノ埼海軍航空隊に転属
1944年	5月31日、任海軍少尉／内閣
	5月31日、充員召集。武山海兵团附／海軍省

1944年	6月19日、武山海兵団に着任
1945年	4月20日、兼武山警備隊附／海軍省
	9月5日、任海軍中尉／内閣
	9月6日、充員召集解除／海軍省
1946年	1月28日、人民塾を開講（～5月2日）
	8月22日、長野県上田中学校勤務（～1947年3月31日）
1947年	10月7日、北海道大学応用電気研究所にて数学に関する研究嘱託（～1948年3月31日）
1948年	1月31日、北海道大学応用電気研究所にて副手（数学部門）
	3月31日、北海道大学応用電気研究所にて研究員（数学部門）
	6月17日、北海道大学応用電気研究所にて雇（数学部門）
1949年	3月8日、大杉富美子と結婚
	10月25日、北海道立札幌女子高等学校にて非常勤講師（～1950年3月31日）
1950年	2月28日、任文部教官3級（助手）／北海道大学（応用電気研究所、～6月30日）
	6月30日、東京都立桜町高等学校勤務
1952年	4月1日、東京都立第四商業高等学校に転任
1954年	11月20日、ソオル社を設立
	12月1日、個人誌『柳』を創刊
1956年	2月、石川三四郎著『浪』をソオル社から発行
	9月、石川三四郎著『わが非戦論史』をソオル社から発行
1957年	12月、唐澤隆三編『石川三四郎書簡集』（ソオル社）発行
1958年	7月、唐澤隆三編『福田英子書簡集』（ソオル社）発行
	10月、唐澤隆三著『黒いネクタイ 唐澤隆三句集』（ソオル社）発行
1963年	4月1日、東京都立北高等学校に転任
1965年	5月、唐澤隆三著『自由律俳句史とところどころ』（ソオル社）発行
1967年	4月1日、東京都立大山高等学校に転任
1971年	11月、唐澤隆三著『自由律俳句史雑記』（ソオル社）発行
1972年	東京都立牛込商業高等学校に転任
	7月、唐澤隆三著『馬の足 雑文集』（ソオル社）発行
1973年	5月、唐澤隆三著『ふるさと 詩集』（ソオル社）発行
1979年	3月、東京都立高等学校教諭を退職。
	東京都立豊島高等学校（定時制）で非常勤講師として数年間勤務
1999年	2月、個人誌『美』を創刊
2011年	2月、個人誌『柳』を終刊
	5月6日、死去

唐澤（大杉）富美子略年譜

1918年	7月13日、東京府北豊島郡高田村に生まれる
1925年	3月24日、日本女子大学校附属豊明幼稚園卒園
1931年	3月23日、日本女子大学校附属豊明小学校卒業
	4月、日本女子大学校附属高等女学校入学
1936年	3月23日、日本女子大学校附属高等女学校卒業
	4月、日本女子大学校家政学部第二類入学
1940年	3月25日、日本女子大学校家政学部第二類卒業（第37回生）
	4月、東京物理学校にて聴講（第2学年数学科）
	7月18日、師範学校中学校高等女学校教員無試験検定（家事）合格
1941年	4月、北海道帝国大学理学部数学科入学
1943年	9月25日、北海道帝国大学理学部数学科卒業
1944年	1月19日、高等学校高等科教員無試験検定（数学）合格
	4月13日、日本女子大学校家政学部第二類講師嘱託（～9月30日）
	9月27日、弟正夫、中国にて戦病死
	10月3日、電気試験所入所（研究員）／運輸通信省
1945年	1月31日、父鑑二死去
1946年	3月12日、電気試験所にて数学研究班班員に配属
	6月30日、任通信技官／通信省（電気試験所基礎部に勤務）
1949年	3月8日、唐澤隆三と結婚
1951年	10月1日、電気試験所物理部応用数学課に勤務
1952年	9月15日、通商産業技官（電気試験所）を退職
1954年	11月20日、夫隆三がソオル社を設立。以後、ソオル社の出版事業に従事
1970年	6月9日、母くま死去
	12月、唐澤富美子編『やまゆり 大杉くま追想集』（ソオル社）を発行
1997年	2月3日、死去

備考 履歴書・証書類等をもとに作成し、『柳』により補完した。

【 解 題 】

山本 美穂子

1. 唐澤隆三・唐澤富美子について

(敬称略)

《唐澤隆三について》

唐澤隆三(1918-2011)は1918年5月長野県小縣郡滋野村に生まれ、1936年3月上田中学校を卒業した。上田中学校在学時代から短歌や俳句に親しみ、荻原井泉水の俳句誌『層雲』の誌友となった。1937年岡本利吉主宰の純真学園で約半年間学び、1938年4月～1941年3月東京物理学校高等師範科数学科を経て、1941年4月北海道帝国大学理学部数学科に入学した。理学部数学科では、微分幾何学を専攻して、穂刈四三二助教授(射影幾何学)・河口商次教授(幾何学)に師事した。数学者を志していたが、戦時による在学年限短縮により、北海道帝国大学を1943年9月25日繰り上げ卒業となった。10月1日第一補充兵(歩兵)として東部五十連隊に入隊の臨時召集令状を受けたため、北海道帝国大学を卒業後は直ちに海軍予備学生となる道を選び、10月1日海軍兵学校に入校した。



唐澤隆三(1964年)

(『柳』第713号、9頁より)

一方、大学の研究員の養成・確保を維持するため、1943年9月25日、文部省は帝国大学の大学院等に特別研究生を置くことを定め、10月1日から施行した。北海道帝国大学には特別研究生41名(理学部8名)が割り当てられた(『北大百年史 通説』1982年、294～295頁)。唐澤隆三には、1943年10月5日付で北海道帝国大学大学院特別研究生の合格通知が送付された。しかし、大学院特別研究生の入営延期が可能となったのは、1943年11月13日(陸軍省令第54号「修学継続ノ為ノ入営延期等ニ関スル件」及び陸軍省告示第54号)であった。さらに、既に海軍兵学校に入校していたこと等が重なり、唐澤隆三は1945年9月召集解除を受けるまで海軍に属することとなった。

終戦後、唐澤隆三は郷里の上田中学校で教諭生活を送った後、射影接続幾何学の研究のため、1947年10月～1950年6月北海道大学応用電気研究所の数学部門に籍を置き、連続群論に取り組んだ。離札後は、東京都立高等学校の数学教諭として教鞭を執りながら、文芸活動に勤しんだ。1954年に創業した自身の出版社「ソオル社」からは、社会主義運動家石川三四郎の著作・書簡集や、自由律俳句史、自身の詩集・句集、個人誌『柳』・『美』などを発行した。個人誌『柳』(月刊)は2011年2月に第863号で終刊するまで57年間も発行された。

《唐澤富美子について》

唐澤富美子（1918-1997、旧姓：大杉）は、1918年7月東京府北豊島郡高田村に生まれた。幼稚園から日本女子大学校附属校に通い、1936年3月日本女子大学校附属高等女学校を卒業し、1940年3月日本女子大学校家政学部第二類を卒業した。帝国大学進学を志して東京物理学校で数学を聴講し、1941年4月には北海道帝国大学理学部数学科に入学した。理学部数学科では守屋美賀雄教授（代数学）に師事し、1943年9月同大学理学部数学科を卒業した。卒業後は東京に戻り、母校で教鞭を執った後、1944年10月運輸通信省所管の電気試験所へ入所した。電気試験所では研究員・通信技官・通商産業技官として1952年まで数学研究に携わった。1949年3月、北大理学部数学科で同級生だった唐澤隆三と結婚した。体が弱かったこともあり、1952年9月電気試験所を退職した。退職後は、ソオル社の出版事業を取り仕切り、夫の文芸活動を支え続けた。



大杉富美子(1941-43年頃)
(大杉H-16)

2. 唐澤隆三・唐澤富美子関係資料について

北海道大学大学文書館では、帝国大学への女性の進学に関する調査を進めるにあたり、故 唐澤富美子さん（北海道帝国大学理学部数学科1943年卒業）のご尊夫であり、かつ同級生であった唐澤隆三氏に2005年から調査にご協力をいただいた。2006～2010年にかけて、唐澤隆三氏からは、唐澤隆三関係資料（27件）・唐澤富美子関係資料（98件）もご寄贈いただいた。

ノート類（分類B）	唐澤隆三 1 件（唐澤B-1） 唐澤富美子 5 件（大杉B-1～大杉B-5）
原稿類（分類C）	唐澤富美子 1 件（大杉C-1）
メモ・手帳類（分類D）	唐澤富美子 3 件（大杉D-1～大杉D-3）
文書類（分類F）	唐澤隆三19件（唐澤F-1～唐澤F-19） 唐澤富美子48件（大杉F-1～大杉F-48）
刊行物（分類G）	唐澤隆三 7 件（唐澤G-1～唐澤G-7） 唐澤富美子 3 件（大杉G-1～大杉G-3）
視聴覚資料類（分類H）	唐澤富美子38件（大杉H-1～大杉H-38）

受贈資料の種類は、①ノート類、②証書・文書類、③原稿類、④メモ類（唐澤富美子による日常生活のメモ等）、⑤刊行物（ソオル社の出版物）、⑥写真（幼児の頃から結婚後に至るまでの唐澤富美子の写真）・録音テープ（夫妻の対談など）である。

ノート類（分類B）では、唐澤富美子関係資料に、生徒・学生時代に数学書を筆写したノートや、北海道帝国大学理学部数学科での受講ノート（写）が3件ある。受講ノートに

ついて、唐澤隆三は「大学時代には教科書がありませんから、試験のときはノートを持っていないわたしは勉強ができず、困りました。ところが、富美子は先生の講義をすらすらとその時間のうちに記録してしまうという才能を持っていました」(『柳』第703号、1998年5月、8頁)と回想している。

原稿類(分類C)では、唐澤富美子関係資料に、日本女子大学校家政学部第二類の卒業論文原稿「非ユウクリッド幾何学概観」がある。日本女子大学校生徒から数学研究を志していたことがうかがわれる資料である。

文書類(分類F)では、唐澤隆三関係資料に、「教練検定合格証明書」、「大学院特別研究生合格通知」など、戦時下の大学生が置かれた状況をあらわす資料が含まれている。



教練検定合格証明書 (1943年)
(唐澤F-2)

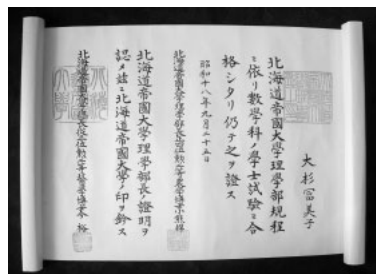


大学院特別研究生合格通知 (1943年)
(唐澤F-3)

一方、唐澤富美子関係資料には、卒業証書類(日本女子大学校附属豊明幼稚園・豊明小学校・高等女学校、日本女子大学校家政学部第二類、北海道帝国大学理学部数学科)が揃っている。また、北海道帝国大学の受験資料(学力検定試験受験証票、第二次入学志願者受験証票、昭和十六年度第二次入学試験日割)、入学資料(入学許可書)、在学資料(学生生徒必携、身分証明書など)も揃っている。「終戦前に旧制大学で学び卒業した女性がいたことは事実ですが、それをうかつにも知らない人がいて、そのことを教えてやっても信じようとししない人もいたことをわたし自身が経験しています」(『柳』第733号、2000年6月、3頁)という唐澤隆三氏が、富美子さんの逝去後、精力的に、北海道帝国大学へ入学した女性に関する資料をまとめようとした賜物である。



「学生生徒必携」(1941年)
(大杉F-41)



学士試験合格証書 (1943年)
(大杉F-5)

(やまもと みほこ／北海道大学大学文書館員)